同窓會報

都立大学附属高校
同窓会機関誌
発行所　目黒区八雲
1-1-2附属高校内
新制同窓会
（723）9966
責任者　内野滋雄
編集者　森田尚人
西沢宗英

名簿改訂について

理事長　内野滋雄（1期）

途絶えていた同窓会活動が再開されて四年になる。

その間の大きな事業の一つは同窓会名簿の発行であった。昭和四九年三月のことである。又その前後には何回も会報がお手もとに届いている。これらは各期の委員の献身的努力に負うものであり、あらためて謝意を表するものである。

会員の消息を逐次お知らせする広報活動は同窓会活動の中で最も大切なものと考えている。従って住所、勤務先、電話などの移動、変更は、いち早く同窓会にご通知願いたい。会報に掲載して皆様にお知らせしたいと思う。

名簿は三年毎に改訂し発行することになっている。定時の同窓会総会も三年毎とそれに合わせてある。従って次回は昭和五二年、来年である。来年の秋、記念祭時期に総会を持ち、新名簿を出したいと考えている。

名簿改訂に当り、問題点が二つある。一つは、理事、評議員の選出されていない年度、クラスがあることである。名簿改訂はクラス単位に行う関係上、これでは支障をきたす。昭和四九年三月発行の名簿の第二頁に相当する部分に同窓会役員の欄がある。役員が欠員になっているクラスは至急同窓会まで適任者の推薦を願いたい。

問題点の第二は名簿の作成・発送に要する費用である。同窓会報第一八号にもあるように、会費収入は会報発行で相殺され、名簿にまわる財源は全くない。そのため卒業後一五年以上経た方に「同窓会追加維持会費」五千円を納入していただくようお願いしているが名簿の全経費を賄うことはできない。

従って五二年の新名簿からは作成、発送費の一部を会員に負担していただかなくてはならなくなった。非常に心苦しいお願いではあるが一部につき千五百円を徴集させていただきたい。ただし新卒業生などで、初めて名簿を受取る年度の方々には無料配布する。

名簿改訂の仕事は今秋から始める。会員諸氏のご理解とご援助をいただきたい。

（昭和五一年十月記）

女子バレー部

野口治代（10期）

あなたは覚えているだろうか。階段を降りたそこは、小さな噴水のある庭園で、その奥にあったコートを。やがてコートはテニス部に属したがその前にはバレー部が練習したものだった。九人制といえば今はママさんバレー位にしか残っていないが当時は九人制である。体育館の上の部室には壁いっぱいに落書きがあり、インスピちょい〳〵書き加えたものだった。部室は我々にとってまさに天国でよくそこへ逃げていったものだ。

合宿は春は沼津、夏は軽井沢であった。沼津では酋長もマッツアオな位真黒に焼け（春焼けるとなか〳〵とれない）電車に乗るといっせいに見られたっけ。軽井沢は自炊で一年は玉拾い皿洗い専門。あの井戸水は冷たかった。

かくてO・B、O・Gにしごかれるだけしごかれ春秋のリーグ戦にのぞむのであったが、結果や無残女子は出ると負けの成績であった。それは決して運神の発達した方でない私と、これ又特に発達しているといえない相棒（特に名を秘す）の為だったのかなあなんて考えたりして今とっても済まない気になったりする。それにしても根気よく指導して下さったO・B、O・Gの方々に頭が下がる。O・B、O・Gには自分達の問題も相談したものだった。生意気な学生を相手によく相談にのってくれたものだと今考えれば汗が出るが当時は何しろ真剣である。恐れを知らないひたむきさも青春の特権であろう。何も考えずに白球を追っていた時は幸せであった。色々悩み苦しみ傷つき（？）もした高校時代。誰もが通過しなければならない悩み多き時代にバレーというスポーツをやれ、バレーを通して都立の最も良い所の縦の線、O・B、O・G達に出合えた事は私にとって本当に幸せであった。

今やあまりにもしがらみの多すぎる身になってはいるが、そのよき時代にしばらく思いをはせ、なつかしさと感謝の気持ちでいっぱいである。

（旧姓　荒井）